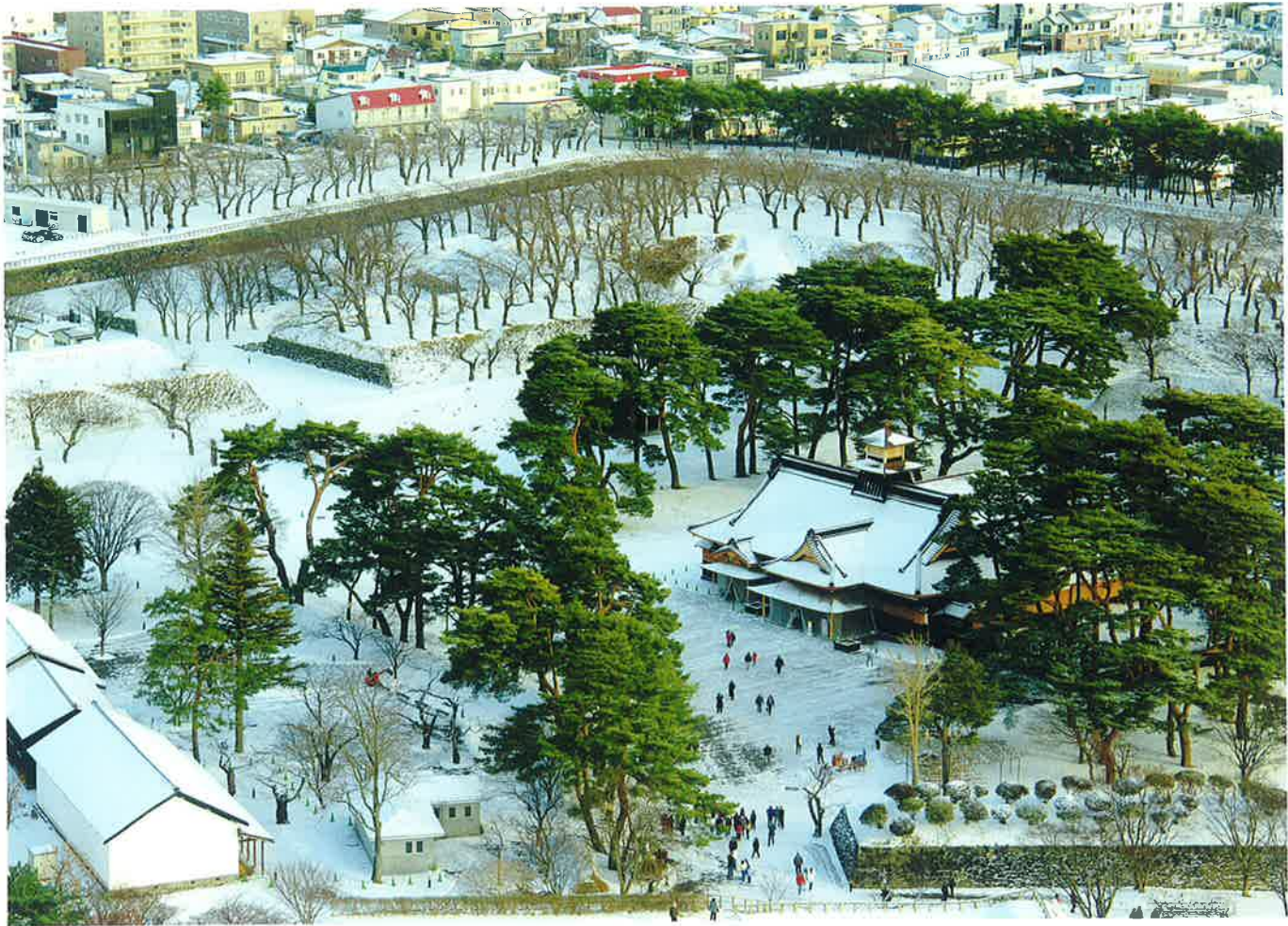


ともしえ

2011
1
No.335



CONTENTS

巻頭特集 正副会頭新春対談

～函館のさらなる発展を目指して～

- ◆健康情報..... P19
- ◆新春紙上名刺交換..... P22
- ◆街の元気・情報交差点..... P30

迎春

Casual Cruise

函館～青森

HAKODATE

AOMORI

3時間40分の快適クルーズ **1日8往復**

HOKKAIDO

時刻表〈函館～青森〉

便	船舶	函館発	青森着	便	船舶	青森発	函館着
4	ブルードルフィン	3:00	→ 6:40	3	びるこ	2:40	→ 6:20
8	びるこ	7:40	→ 11:20	5	びなす	5:20	→ 9:00
14	びなす	12:00	→ 15:40	7	えさん2000	7:40	→ 11:30
16	えさん2000	14:00	→ 17:50	11	ブルードルフィン	10:00	→ 13:40
18	ブルードルフィン	17:30	→ 21:10	13	びるこ	14:20	→ 18:00
22	びるこ	20:15	→ 23:55	17	びなす	17:10	→ 20:50
24	びなす	22:00	→ 翌1:40	19	えさん2000	19:10	→ 23:00
26	えさん2000	23:50	→ 翌3:40	23	ブルードルフィン	22:15	→ 翌1:55

時刻表〈函館～大間〉

便	船舶	函館発	大間着	便	船舶	大間発	函館着
6	ばあゆ	9:30	→ 11:10	5	ばあゆ	7:10	→ 8:50
10	ばあゆ	17:00	→ 18:40	9	ばあゆ	14:20	→ 16:00



ご予約・お問合せ

☎ 0138-43-4545

函館市港町3丁目19-2

☞ (PCサイト) www.tsugarukaikyo.co.jp

☞ (携帯サイト) www.tsugarukaikyo.co.jp/m



携帯サイトはこちら

ともえ

1月号
(通巻335号)

- 2 年頭所感
- 4 新春特集
- 8 会議所のうごき
- 12 優良商工従業員表彰式
- 14 中小企業相談所だより
- 16 会員企業ご紹介
- 17 新入会員ご紹介
- 経営者の悩み
- 18 新幹線情報
- 19 健康情報
- 20 ご案内
- 22 新春紙上名刺交換
- 28 全面広告
- 30 街の元気・情報交差点

◆今月の表紙

雪景色に映える箱館奉行所。

140年の時を経て、再び新春の光を浴びた。

(写真提供：小松 英海 氏)



謹賀新年

旧年中は格別のお引立てを賜り
厚く御礼申し上げます。
本年も会員皆様にとって、良い年で
ありますよう心からお祈り申し上げます。



広告掲載企業

津軽海峡フェリー(株)	表紙裏
北海道地域ジョブ・カードサポートセンター	裏表紙裏
北海道中小企業再生支援協議会	裏表紙
(社)函館地方法人会	P28
函館青色申告会	P29
(業)英知国際特許事務所	段下
(株)道水	段下
中小企業基盤整備機構	段下
(株)日経コンサルタント	段下
龍文堂印刷(株)	段下

年頭所感



函館商工会議所 会頭

松本 榮一

平成23年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

私は昨年11月、地域経済への様々な思いや決意を胸に会頭に就任いたしました。未だ景気回復の兆しが見えない先行き不透明の中で、新年を迎えるのにあたり、あらためて責務の重大さを実感し、身の引き締まる思いでございます。

わが国経済の一日も早い持ち直しを期待しつつも、地域としてはただただ回復を待ち、手をこまねいては何も始まりません。地域経済を支えるのは中小企業の経営安定と自立そのものであり、長期化している雇用問題についても、企業の業績回復なくして抜本的解決には至りません。中小企業の経営基盤の強化こそが、地域の自立、発展につながるものと考えております。

私は就任にあたり、活動方針として次の4つの方針を掲げました。

1つは「バランスある産業の形成」であ

ります。

第3次産業に特化した当地域において、製造業を中心とする第2次産業の育成が重要であり、あわせて水産・海洋都市構想の推進は地域の重要なまちづくりの核となるものと捉えております。

2つ目は「高速交通体系の進展による地場産業の広域化」であります。北海道新幹線の新函館開業もいよいよ5年後に迫り、カウントダウンに入りましたが、新幹線をはじめ高速道路・航空路線の整備充実は、時間距離を短縮する一方で、地域間競争を激化させることにもなるため、当地域としての連携強化が必至となるものと考えております。

3つ目は、「(仮称)経済戦略会議の設置と近隣商工会との連携強化」であります。

行政や商工会議所・商工会などをメンバーとし、地域経済の活性化について様々な戦略を練るため、勉強会や情報交換を行い、関係機関との情報の共有化を図りながら様々

な活動を展開していくことが必要であると
考えております。

4つ目は、「常議員会・各部会、委員会
活動の活発化と組織財政基盤の強化」であ
ります。各部会活動の相互の連携強化と
一体化を図ることにより、経済活動を一層
強固なものとしなければなりませんし、円
滑な活動を展開する上では、安定した財政
基盤を築いていくことが重要であります
ので、会員の拡充を含めた組織強化が必要
不可欠であると考えております。

幸い当地域には、水産・海洋都市構想の
推進や北海道新幹線の建設整備と、将来が
期待される明るい材料がありますので、こ
の好材料を確実に生かしていかなければな
らないと考えております。

水産・海洋都市構想の核となる研究拠点
基地、マリンサイエンスパークの整備も計
画段階からいよいよ現実味をおびてきました。
国際的な研究拠点となることは、水産業は
もとより、「食」や「観光」に至るまで多
岐にわたって、あらゆる分野への効果が
期待され、また、官・学の研究に企業が協
働することによって、付加価値を付けてい
くこととなることから、その推進は、産業
育成にとって極めて重要な役割を担うもの
と確信しております。

また、昨年12月には東北新幹線が新青森

まで全線開業いたしました。今後は、5年
後の新函館開業に向け、南東北あるいは北
関東地域まで視野に入れた商圈の拡大や当
地域の魅力をPRすることが必要不可欠で
あると考えております。また基幹産業であ
る観光においては、国内はもとより東アジ
アを中心とした海外への積極的なPRも重
要な取り組みであります。

当地域をどのようなまちに形造っていく
のかという“ビジョン”を、企業と行政が
真剣に考え、共有していくことが大切であり、
そのために私ども商工会議所がリーダーシ
ップをとり、企業に活力を与えて地域経済を
活性化へと牽引していくことが最も重要な
使命であります。このような時代だからこ
そ、商工会議所には、適確な判断と決断力、
そしてスピード感のある事業展開ができる
組織体制づくりが強く求められます。

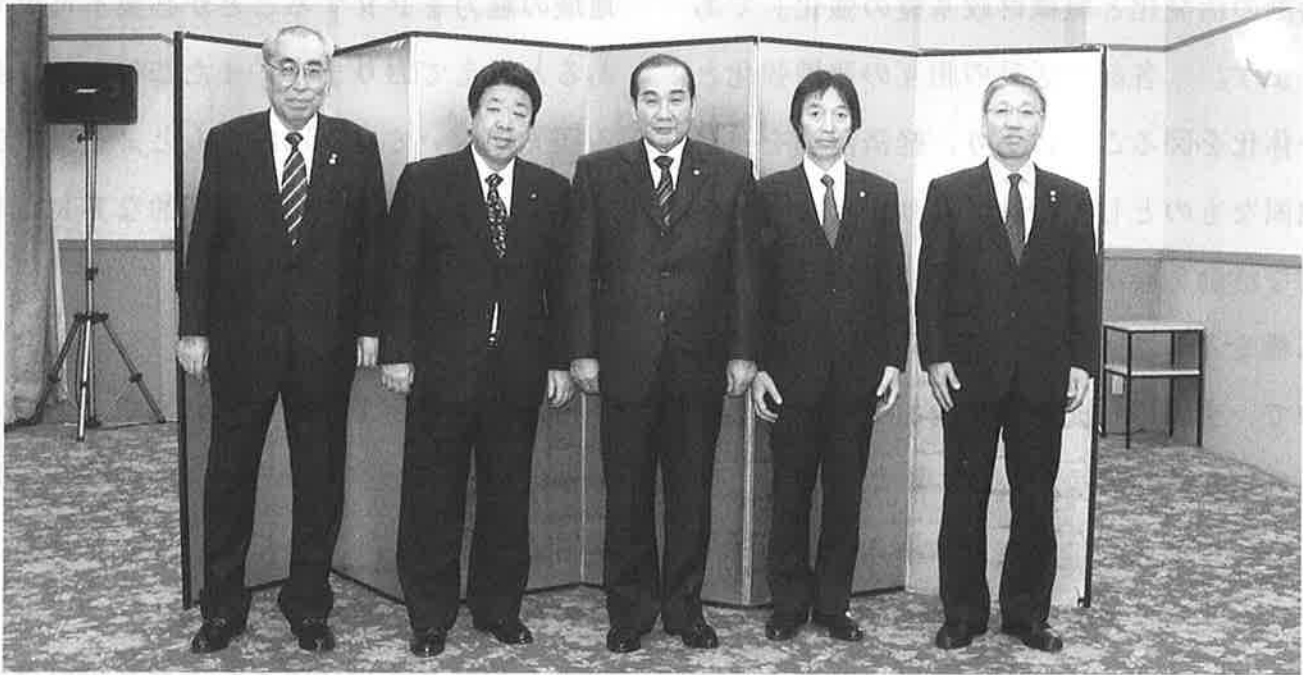
今年はその基礎を築くべく、着実に一步
を踏み出す年とするため、正副会頭をはじ
め議員、事務局が一丸となって全力を注い
でまいる所存でございます。

新春にあたり会員皆様の事業繁栄とご多
幸をお祈り申し上げますとともに、商工会
議所に対する一層のご理解とご協力を心か
らお願い申し上げましてご挨拶といたし
ます。

新春特集 正副会頭新春対談

あけましておめでとうございます。本号では、新春企画として正副会頭にお集まりいただき、本所の今後の方針、重点施策について語っていただきました。

正副会頭それぞれが描く未来の函館、また、地域の活性化を図り、まちづくりを推進していきたいという、熱い思いが伝わる対談となりました。



佐藤 祐幸
副会頭

木村 孝男
副会頭

松本 榮一
会頭

石尾 清広
副会頭

永井 英夫
副会頭

【古川専務理事】

あけましておめでとうございます。

新春にあたり、正副会頭にお集まりをいただき、今後の抱負をお伺いしたいと思い、この対談を企画いたしましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて函館商工会議所は、昨年11月1日に松本会頭が新しく就任され、新体制がスタートいたしました。松本会頭からは就任にあたり、4つの基本方針を示していただきましたが、本日はあらためまして重点施策について、皆様のお考えをお聞きしたいと思いますので、忌憚のないご発言をよろしくお願いいたします。

【松本会頭】

私が考える重点施策の一つとして、まず「バランスある産業構造の形成」を挙げたいと思います。当地域の就業構造は、第3次産業の比重が77.5%と特化しておりますが、安定した経済基盤を築いていくためには、第2次産業の育成が大切であり、あわせて水産海洋都市構想の推進による産業の育成とまちづくりが不可欠であります。

【木村副会頭】

函館は、コンブ・イカを主とした水産物取扱高が、国内の主要水産都市の中で全国11位という上位ランクにある水産都市であります。しかし、これを支える1次産業の構成比は4.1%と、極端に少ない現状にあり、後継者不足も深刻な問題となっております。

また、このような中で1次産業に付加価値を付ける2次産業の育成も不可欠であり、函館は1次産業、2次産業のウェイトを高めることが地域として強く求められていると思っております。

幸いにして水産海洋都市構想が順調に進んでいますので、1次産業と2次産業がバランスよく発展できる取り組みを、より強化していくことが必要だと思います。

【佐藤副会頭】

そうですね。私も当地域の経済発展のためには、第2次産業の育成は非常に重要だと思います。雇用の問題や財政の問題など、地域全ての経済や生活に関わってくることです。もちろん、一朝一夕で実現するものではありませんが、水産海洋都市

～函館のさらなる発展を目指して～

構想を推進していくことへの期待は大きいと思います。

【石尾副会頭】

函館は、水産・海洋に関して、裾野の広い産業群や北海道大学水産学部をはじめ、関連学術・試験研究機関が充実していますし、産学官の連携は文部科学省からも極めて高い評価を受けております。この特性を生かした「函館国際水産・海洋都市構想」は、同構想の中核的施設となる「国際水産・海洋総合研究センター」の整備に向けて、現在計画が進んでいるところです。大学や企業、自治体など、地域が一体となって産学官連携の基盤をしっかりと構築することが、同構想を推進する上で重要だと思えます。

平成21年4月に「一般財団法人 函館国際水産・海洋都市構想推進機構」が設立され、水産・海洋に関する科学技術を産業振興に結びつける取り組みが、いよいよ活発に行われるようになった訳でありまして、さらなる進展を大いに期待しています。

【永井副会頭】

私も水産・海洋ビジネスの振興に期待している一人であります。現在代表的なものの一つとして「がごめ昆布」が挙げられると思いますが、貴重な地元の資源であり、これまでの研究成果がたくさんの製品を産んできました。

水産・海洋資源に恵まれた特性や優位性を生かし、世界各国の大学や研究所、企業との研究・開発の交流を盛んに行い、マリンサイエンスの分野で世界をリードすることができれば、学術研究機関の開設、国際会議や学会の開催など、よりグローバルな研究展開や研究成果を生かしたベンチャー企業の創出も期待できますし、そのことによって函館はさらなる発展を遂げることができると考えております。

また、最近注目を浴びていることの一つとして、道南に医学部新設を求める声が多くなってきており、実現には財政上の大きな課題もありますが、地域をあげての検討が必要かなと感じているところです。公立はこだて未来大学の医学部設置に関しては、地域振興の上でも大きな効果が生まれる可能性がありますし、将来的にITは、生物や医学系に必ず関わってくるものですので、ぜひ前向きに検討して欲しいと思っています。

【古川専務理事】

ありがとうございました。では次に、松本会頭の2つ目の方針であります「高速交通体系の進展による地場産業の広域化」をテーマにご発言をお願いいたします。

【松本会頭】

昨年12月4日に東北新幹線が新青森まで開業しましたが、当地域では今後、新幹線、高速道路、航空路線といった高速交通体系の整備充実がさらに進められ、時間距離が飛躍的に短縮し、利便性が高まってまいります。しかし新幹線は数多くのお客様を運んでまいります一方で、ライバルも運んでまいります。

このことは当然のごとく、地域間競争を激化させることとなりますので、当地域の地場産品等の他地域に対する積極的な売り込みをはじめ、地域が連携を図り、その対策に積極的に取り組む必要があると思えます。私は「南進政策」の推進だと発言しております。

【石尾副会頭】

地域の競争力を高めるためにも、函館ブランドを確立し、地場産品の積極的なPRを展開することが重要です。他の地域で開催される物産展等では、北海道の物産は常に売れ筋商品であります。その中にもあってもさらに、函館としてのブランドを売り込むことが必要だと感じています。新幹線が青森まで来たことで、東北南部、北関東との繋がりがこれまで以上に期待できる今こそ、当地域の物産のPRに力を注ぎ、販路の拡大に繋げていくべきです。絶好のチャンス到来だと思います。

また、地元以外ではあまり知られていない食材や加工品などを広くPRし、地元で生産消費する「地産地消」から他地域での積極販売を行う「地



産外消」にシフトすることで販路の拡大に繋げていければと考えます。

【永井副会頭】

5年後に迫った北海道新幹線新函館開業に伴う経済効果は、観光振興や経済交流の促進などをはじめ、様々な産業分野に大きな影響を与えるものだと思います。その経済効果を最大限に生かすためには、今のうちから地域産業の競争力を強化していくことが必要不可欠だと考えます。



【木村副会頭】

私も北海道新幹線新函館開業時に備え、また経済波及効果を最大限に引き出すため、特に当市の基幹産業である観光分野において基盤整備を進めべきだと思っています。

また、本所はこれまでも新幹線開業を見据えての南東北や北関東地域等において、観光客誘致のPR活動を行ってきましたが、今後も引き続き、各地域への一層の誘致活動を強めていくべきだと思います。

【松本会頭】

当市の観光は基幹産業として大きな役割を果たしており、引き続き函館市をはじめ関係機関と連携し、国内はもとより、東アジア地域への誘致宣伝活動を積極的に行っていきたいと考えています。

【木村副会頭】

北海道新幹線の建設と相まって、函館空港と全国各地を結ぶ航空路線網の充実を図り、輸送枠をしっかりと確保していくことは、交流人口の拡大に繋がります。また、函館空港はアジアのハブ空港である韓国の仁川国際空港と定期便を運行している強みがあります。これは、成田空港を経由しなくても世界各国の都市と結ばれているという事であり、時間短縮の意味でも、世界からの観光客を迎え入れるという意味でも非常に大きな利点を有しているといえます。

これら空港路線網の充実強化は、函館を国内主要都市や世界各都市と近づけ、国際観光都市としての評価をより高めていける要素になると私は考えております。

【古川専務理事】

もうすぐ函館市は、韓国の高陽市と姉妹都市提携を結ぶ予定です。これで姉妹都市は5カ所目となりますが。

【木村副会頭】

そうですね。高陽市は、韓国の首都であるソウル市のベッドタウンとして、近年急速に発展している人口約90万人の都市であり、また、仁川国際空港とも高速道路で結ばれ、非常に好立地にある都市であります。この高陽市と提携することによって、両都市の交流を活性化できることはもちろん、韓国の他都市との交流を図る上でも、近年増加傾向にある外国人観光客をさらに呼び込める非常に大きなメリットになると確信しています。



【古川専務理事】

海外や他地域への働きかけ、交流・連携についてのお話を伺いましたが、松本会頭は地域内の連携についても重要施策の柱とされておりますが。

【松本会頭】

地域の方向性として、共通した認識を持つことができるよう、早急に本所が中心となり、行政および商工会等を構成メンバーとした（仮称）経済戦略会議を設置し、当地域の経済活性化について様々な戦略を練り、また勉強会や情報交換を行い、関係機関との情報の共有化を図りながら様々な行動を展開してまいりたいと考えております。

また、新幹線時代に的確に対応できるよう、情報交換や勉強会を開催するなど、すぐに実行に移したいと考えております。本所と近隣市町の商工会と垣根を取りはらって話し合い、連携を強化していくことが不可欠であると考え、提唱したものであります。

【木村副会頭】

本所は、平成19年2月に銭亀沢商工会と統合しましたが、統合後に商工会時代の会員さんには、ご不自由をかけないよう銭亀沢支所が担当する形で運営されています。従来から、地域密着型で様々な活動を行っておりますが、さらなる振興活性化

が望まれており、積極的な事業展開が必要だと思っております。

【佐藤副会頭】

同じ函館地域の中でも各地域にそれぞれの事情があり、情報交換、勉強会等によるコミュニケーションが非常に重要になると思います。

私は特に大門通りの再開発について意見を述べてみたいと思います。



駅前、大門地区はかつて函館の顔として、行政・経済・娯楽の中心地でありましたが、現在は郊外への人口流出などもあり、空き地や空き家などがあまりにも多く目立ち、衰退が進んでいる地域となっています。

このため札幌市の大通りや那覇市の国際通りなど、各都市の顔として、賑わいを見せている地域を参考に、本所においても、中心市街地に商業・都市機能を集約したコンパクトなまちづくりを目指し、これ以上の市街の空洞化を避けるべく、函館市とも連携を図り、中心市街地活性化協議会の設立をしっかりと推進していくことが重要であります。

また私は、函館公園の再開発ができないものかと考えています。

公園周辺は多くの観光客が訪れる元町地区も近いことから、景観や施設の充実を図れば、観光スポットとしても注目が集まる場所だと思っていますし、市民会館の改装とコンベンション施設の新設を推進することは、各種国際会議等の誘致や、それに併せての観光客の誘致に繋がる大切な要素になると思います。

【古川専務理事】

折角の機会でございますので、これは是非発言しておきたいという事がらがあればお願いいたします。

【永井副会頭】

札幌を中心とする道央地域への人口や産業の集積が進んでいますが、都市部への人口集中は札幌に限ったことではありませんし、札幌が大いに発展していくことは北海道にとっても有益であると思います。しかし、そのことによって、都市部と地方との間で格差が生じてしまうことは好ましくありません。

人口が集中することによって生じる地域格差を防ぐためには、広域分散型社会の形成、さらには、地域の個性や魅力を生かしたまちづくりを行い、中核的都市における機能を充実させ、地域内外との競争力を高めるための連携を強化することが重要だと思います。

【佐藤副会頭】

私は、新聞等で取り上げられている環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）についてお話ししたいと思います。

農業を例に、フィンランドでは水耕栽培が普及しており、土を使った栽培より清潔で成長も早く、ありとあらゆる栽培に利用され、今までは不可能といわれていた根菜類も栽培可能となり、近年、世界中でブームとなっているようです。日本の良質な水を生かし、付加価値のある農業の育成、また寒冷地における農業の育成を目指すには、水耕栽培の普及、促進が必要だと考えています。

自由貿易と農業をめぐる様々な意見がでていますので、TPPに参加するかどうか、自由貿易に対応するにはどうすべきかなど慎重に検討を重ねなければならないと思います。

【古川専務理事】

ありがとうございました。では最後に、本所の「常議員会・各部会及び委員会活動等の活性化と組織財政基盤の強化」についてお聞かせください。

【松本会頭】

昨年12月20日の第2回臨時議員総会において、常議員の選任、各部会および各委員会が決定いたしました。各部会については、中小企業・小規模企業への支援や、まちづくりの推進をはじめとする事業活動をさらに充実させ、強化していくことを目指し、今までは6部会でしたが、今回から新しく7部会で編成し、定期的な開催や横の連携を図ることで情報の共有化も可能になるものと考えております。また本所が円滑な組織運営を展開していく上では、財政基盤を盤石なものにしなければなりません。そのため、議員と事務局が一体となって会員の拡充、そして財政基盤の確立に取り組んでまいりたいと考えております。

【古川専務理事】

本日は、貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。我々事務局も一丸となって函館の地域経済の活性化のため全力を尽くす所存でございます。本年もよろしくお願いいたします。

会議所の うごき

第2回 臨時議員総会開催

第2回臨時議員総会を去る12月20日、ホテル函館ロイヤルにおいて、議員98名（うち委任出席35名）の出席のもと開催しました。

当日は、本所役員・議員表彰規程による表彰が行われ8名の方々が表彰されました。

また、議事に入り、定款の一部変更について及び部会運営規約の一部改正についてを協議し、部会を別表のとおり7部会に変更し、中小企業支援やまちづくりの推進を強化していくこととしました。

また、常議員33名の選任と、各委員会正副委員長の委嘱承認について審議され、いずれも異議な

く承認され、別表のとおり選任されました。



▲冒頭挨拶する松本会頭

常議員選任一覧

○新任 敬称略

○相川正夫	○高野元宏
石井直樹	○高野洋藏
○大越信幸	○高野橋則行
小笠原康正	田橋島久吉
○鍵谷良一	田中秀仁
加藤健太郎	辻坂伊佐夫
○金沢俊司	寺名取喜昭
○河村保幸	○成澤村憲茂
久保隆二	西村善美
○古伏協善	○森川基充
○斉藤勝則	○柳澤政嗣
境々木哲夫	○山田修司
佐藤征昭	○山本富良
○佐藤止一	山渡良三
○芝原廣輔	
須田新	

本所役員・議員表彰規程による表彰者

敬称略

・平成22年10月1日付

在任21年	常議員	加藤健太郎
〃	〃	西村憲人
在任15年	常議員	河村隆平

退任議員(日付順)	前1号議員	須田新梧
	〃	西川昭彦
	〃	若山直

・議員改選による退任議員

前監事	土谷雅宏
前2号議員	兵頭法史